



第3回福島県環境創造シンポジウム ～ふくしまウチモノT DISCUSSION～ 開催

福島県環境創造シンポジウムは、「福島の今と未来」について共に考えるきっかけになってほしいという想いで開催しています。第3回目となる今回は、「県内から見た福島」と「県外から見た福島」のそれぞれの視点から議論を展開しました。

【オープニングセッション】

フリーアナウンサー 宇賀なつみさんと科学コミュニケーター 本田隆行さんの司会進行のもと、福島高校と安積高校、そして、長野県屋代高校の生徒たちが、原子力災害を経験した福島について感じていることなどについて、コミュニティ福島と屋代高校をライブ中継でつないで発信し、県内から見た福島と県外から見た福島の違いを実感しました。

【パネルディスカッション】

オープニングセッションに登壇した福島高校と安積高校の生徒たちに加え、様々な分野で活躍している方々をパネリストとして議論を展開し、オープニングセッションで浮き彫りになった「県内から見た福島と県外から見た福島の違い」を踏まえ、風評やそれを払拭するための情報発信の在り方などの福島が抱える課題に対し、参加者一人一人として、どのような行動をしていけばよいのかを考えるきっかけになったと感じています。

【各種団体によるブース出展】

原子力災害からの環境回復や福島復興に向けた取組を行っている様々な団体によるブース出展をしていただき、来場者にそれぞれの取組を周知するとともに、出展団体間の交流の場を設けるなどしました。



オープニングセッション



団体ブース出展

「コミュニティサイエンスアカデミア」成果発表会を開催しました！

コミュニティサイエンスアカデミアは、福島県の小中学生のための特別なサイエンスクラブです。「科学のあたまは自分で育てる」を合言葉として、科学コミュニケーター本田隆行さんの進行のもと、令和元年6月から活動を開始。約半年間にわたり、実験やワークショップ、意見交換などを通して、福島県の過去・現在・未来の姿を学び、疑問を自分で追いかける力や発信力を高めてきました。

令和2年1月18日(土)に開催した成果発表会では、メンバーが全12回の活動を通して考えたことを、自分の言葉で発表しました。

Basic(小学生)クラス

- 発表テーマ
- コミュニティからはじめよう
 - 放射線を霧にする！
 - 風力発電でエネルギーを作ろう！
 - 電磁波は目に見える？
 - エッグドロップに挑戦！
 - 科学は農業を助ける？



Advanced(中学生)クラス

- 発表テーマ
- 日本の食品基準値について
 - 放射線と食への意識
 - スマート農業の実現
 - 農耕地の除染のしくみ
 - 風評被害とその対策
 - 再生可能エネルギー など



*特設サイト(<https://com-fukushima.jp/csa/>)では、コミュニティサイエンスアカデミアの概要やこれまでの活動の様子を発信していますので、ぜひご覧になってください。

「ふくしまサイエンスコミュニケーター養成講座」最終回を迎えました！

ふくしまサイエンスコミュニケーター養成講座は、高校生以上を対象とした科学講座です。東日本大震災を経験した福島に関するさまざまな情報に触れて、放射線に関する知識を習得し、原子力災害を経験した福島の状況を理解するとともに、科学コミュニケーション活動を通して、得られた情報を対話により伝える能力を高めてきました。

令和2年1月18日(土)の講座最終回では、コミュニティ福島館内での科学コミュニケーション活動を行ったほか、これまでの講座を振り返って「福島県に必要な科学コミュニケーションとは何か」を受講生一人ひとりが考えました。



“ふくしま”を知ろう！ ～聞きます、話します、ふくしまの今～

◎日本科学未来館(東京都) 令和2年1月11日(土)開催

本講座の受講生が県内生活者としての立場から、環境創造センターの研究者が専門家としての立場から、“ふくしま”に関する科学コミュニケーション活動を実施し、来場者の皆様とともに“ふくしま”の未来を考えました。



受講生によるブース展示



研究者によるサイエンストーク

令和元年度せせらぎスクールマップ及び事業報告書を作成しました！

令和元年度は、「せせらぎスクール」に35団体延べ1,412人の皆さんに参加いただきました。

また、新たに水生生物調査の指導者を目指す方を対象にせせらぎスクール指導者養成講座を開催し、講義や河川での野外実習により、水生生物調査の指導方法について学んでいただきました。

参加者の皆さんからいただいた調査結果や活動の様子の写真、感想などをせせらぎスクールマップ及び事業報告書にまとめましたのでぜひご覧ください！

★詳しくは、福島県ホームページ「せせらぎスクールマップ、事業報告書」をご覧ください。



コミュニティ福島 ボランティアスタッフ募集中！

- 対象 | 来館者との適切なコミュニケーションをとることができる15歳以上の方(中学生を除く)
- 主な活動 | コミュニティ福島で開催するイベントの開催支援
新規体験プログラムの企画・提案・実施

コミュニティ福島までお気軽にお問合せください！

電話:0247-61-5721 FAX:0247-61-5727

メール:volunteer@com-fukushima.jp



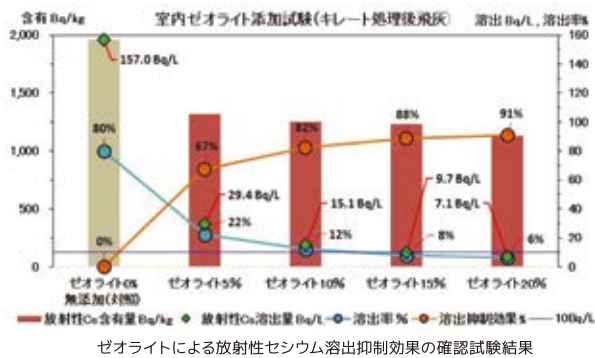
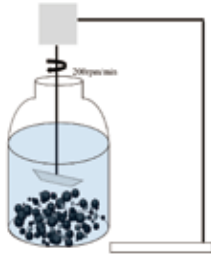
研究紹介

環境創造センターでは、福島県の環境回復・創造に向けて、「放射線計測」、「除染・廃棄物」、「環境動態」、「環境創造」の4つの部門(グループ)に分かれて、日々研究を行っています。
今回は環境動態(廃棄物)グループの研究について紹介します。

廃棄物グループでは、廃棄物処理施設において放射性セシウムを含む廃棄物を安全かつ適正に処理・処分していくために、焼却処理や埋め立てをした後の放射性セシウムの挙動調査や放射性セシウムを含む廃棄物の適正管理技術の検討に資する研究を行っています。

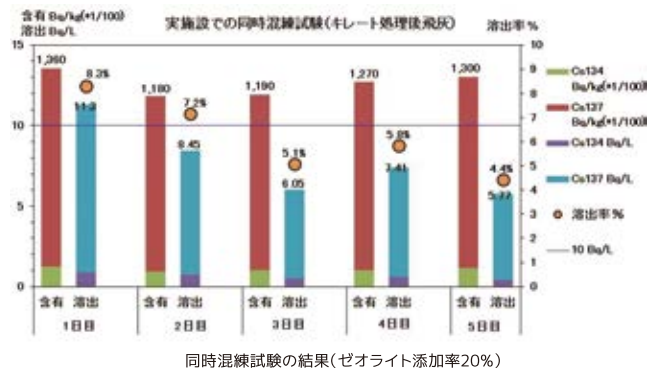
○焼却灰からの放射性セシウム溶出試験

廃棄物の焼却により発生する焼却灰には放射性セシウムが含まれており、また、焼却灰中の放射性セシウムは水に溶けやすいといわれています。そこで、実際の廃棄物焼却灰を採取し、水を加え攪拌する試験を行い、その溶けやすさを調査しました。それに加え、放射性セシウムを溶出させない方法を調べる試験も行っています。



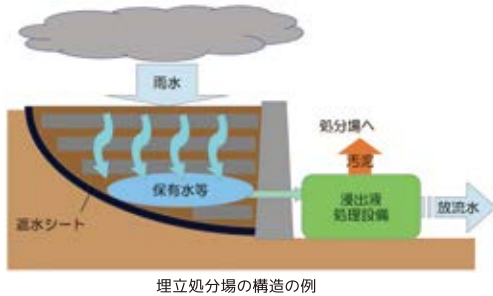
○焼却施設における放射性セシウム溶出対策試験

溶出試験で得られた結果をもとに実際の廃棄物焼却施設において焼却や排ガス処理などの段階で薬剤を加えたらよいかなどを検討し、予備試験を行ったうえで、市町村等の施設の協力を得ながら効果検証のための試験を行っています。

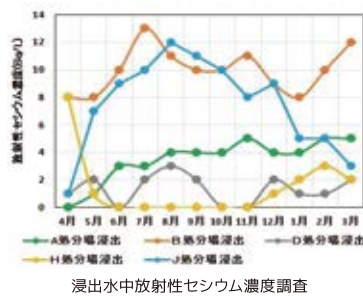


○埋立処分場セシウム移行挙動調査

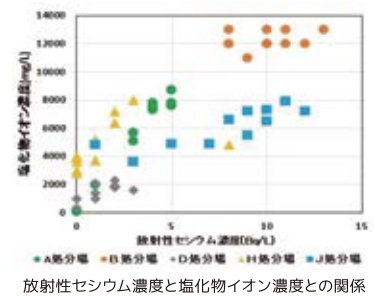
処分場の構造、埋め立てられた廃棄物からの放射性セシウム溶出率、覆土等のセシウム吸着能力及び放射性セシウムの浸出状況を調査し、長期間の放射性セシウムについて埋立処分場内での挙動を予測することで、将来にわたる埋立処分場の安全な管理手法の検討を行っています。



埋立処分場の構造の例



浸出水中放射性セシウム濃度調査



放射性セシウム濃度と塩化物イオン濃度との関係



福島県環境創造センター

福島県の環境回復・創造に向けた「モニタリング」、「調査研究」、「情報収集・発信」、「教育・研修・交流」の業務を行っています。環境創造センターホームページより、県内市町村の空間線量、大気環境等のモニタリング情報を御覧いただけます。



福島県環境創造センター交流棟「コミュタン福島」 入場無料

TEL.0247-61-5721 FAX.0247-61-5727

- 開館時間 9:00~17:00
- 休館日 毎週月曜(月曜が祝日の場合、翌平日)・12月29日~1月3日
- 売店、キッズスペース、授乳室、和室(飲食可)もあります。

ホームページ <https://com-fukushima.jp/>

車をご利用の場合 磐越自動車道船引三春ICより約5分

電車をご利用の場合 JR磐越東線三春駅より車で約12分

三春町町営バスをご利用の場合 三春駅~環境創造センター(コミュタン福島)へ

コミュタン福島をご利用の方はバス料金無料 年末年始(12月31日~1月3日)を除き毎日(1日4便)運行



田村西部工業団地内、ドームが目印です。